

○議長（堀内春美さん）

日程第2 一般質問

質問の通告者は、7名であります。

これから、通告順に一般質問を行います。

それでは、通告1番 11番 鮫田洋平君の一般質問を行います。

11番 鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

今回も提案型の質問を考えさせていただきました。今回は三世代同居補助金の導入です。この提案は、少子高齢化や人口流出といった、町が抱える人口減少問題の課題を解決するための一助となり、長期的に見て、町の発展に寄与するものと考えます。全国を見ますと、千葉市が三世代同居や近居を促進するために、住宅の新築費用やリフォーム費用を助成する制度を導入しており、限度額50万円、市内業者が成功した場合は限度額100万円の助成金が支給され、地域の定住促進に寄与しているそうです。また、県内でも、鳴沢村で住宅の取得や改修工事を行う者に対して、補助金を交付する制度を導入しています。鳴沢村は、住宅取得の場合は新築物件で最大100万円、中古物件で最大80万円、住宅改修の場合は最大50万円の補助金を交付する制度を導入しており、子育ての環境整備や高齢者の孤立防止、定住人口の増加を目指しています。富士川町の総合計画においても、住み続けられるまちづくりや、定住促進地域コミュニティの活性化などが重要な課題として挙げられています。特に人口減少対策として、若い世代の定住支援を強化し、高齢者との共生を推進する取り組みが求められています。三世代同居補助金の導入はこうした課題に対応し、町民の暮らしの安定と地域社会の維持に繋がる政策として有効な選択肢となり、若い世代の定住促進、高齢者の孤立防止、地域コミュニティの活性化など、多くのメリットが期待されるところであります。また一方で、財源確保や制度の公平性といった課題も存在します。本来であれば、国や県が実施すべき政策ではありますが、町独自の取り組みとして先駆的に導入する意義があると考えます。また、この政策はSDGs、持続可能な発展目標の達成にも寄与するものであり、目標の3、全ての人に健康と福祉を、高齢者の孤立防止や医療介護費の抑制を通じて健康で安心できる生活を支援します。目標11、住み続けられるまちづくりを、空き家の有効活用や持続可能な住宅環境の構築を通じて、住み続けられるまちを実現します。目標13、気候変動に具体的な対策を、省エネ住宅の推進やエネルギー消費の効率化を通じて、環境負荷の軽減に寄与します。特にこの三つの目標に関連していると思っています。

それでは、通告に従いまして一般質問を始めます。質問事項は大きく二つであり、項目は全部で17個ありますので、簡潔にわかりやすい答弁をお願いいたします。今回も富士川町の未来を語ろう活性化プロジェクトの参加者からの意見や、町民の意見をもとに質問させていただきます。質問事項1、三世代同居補助金の導入について。まず、三世代が同居することのメリットについての質問をしていきます。それでは（1）若い世代の定住促進や地域経済の活性化について。三世代が同居することで若い世代が町に定住し、労働力が確保されることで地域経済の活性化に繋がり、生産年齢人口の増加に繋がるメリットがあると思います。具体的には、地元企業への就職や新たなビジネスの創出が期待され、町の経済基盤が強化さ

れる可能性があると思いますが、当局のお考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまのご質問にお答えいたします。本年3月に改定した富士川町人口ビジョンにおいて、令和42年、2060年には町の人口が約7000人にまで減少すると予測されているところであり、若者の定住や地域経済の活性化は、人口減少問題の取り組みに直結する課題であります。こうした中、本町に生まれ育った若者をはじめ、若い世代がまちに魅力を感じ、住み続けていただけることや、地元に戻ってきていただけることにより、三世代同居が増え、支え合いや見守り、地元への就職による地域経済の活性化など、持続可能なまちづくりに繋がるものと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

次に（2）子どもの教育環境の向上や祖父母世代との連携による育児支援について。三世代が同居することで、祖父母世代の知恵や経験が子育てに生かされ、子どもたちが安定した環境で成長できるメリットがあると思います。例えば、祖父母が学校行事や家庭学習をサポートすることで、教育効果が向上し、子どもの社会性や学力の向上が期待されると思いますが、当局のお考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

子育て支援課長 小林喜文君。

○子育て支援課長（小林喜文君）

ただいまのご質問にお答えいたします。三世代同居における子育て支援につきましては、子どもの成長や教育環境において、様々なメリットがありますが、その一つに祖父母世代と連携した育児支援があります。祖父母による家庭における家事や学習面へのサポートは、子どもに安心感を与え、心と体の成長が図られるとともに、親の子育て負担の軽減にも繋がります。また、長年の人生経験から得た知恵や経験を子育てに生かすことは、子どもの成長や社会性を養う上で大きな効果が期待できます。こうしたことから、三世代同居による子育て環境の充実は、子どもの教育や社会性の向上に非常に有効であると考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

（3）既存の住宅や空き家活用による持続可能な住環境の構築について。三世代が同居することで、既存の住宅を有効活用でき、新たな住宅の過剰な建設を抑制し、空き家の増加を防ぐ持続可能な住宅環境を構築できるメリットがあると思います。現在居住する家をリフォームすることで、建築費用を抑えることもできます。また、空き家をリフォームして住居として活用することで、町の環境や治安の改善にも寄与すると考えますが、当局のお考えをお

伺いたいします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまのご質問にお答えいたします。空き家や管理がされていない住宅が増加することは、防犯や防災、衛生、景観など様々な面で問題が発生するものと認識しております。町では、既存の住宅を対象として耐震診断や耐震改修費の補助、新婚世帯を対象とした住宅リフォーム補助を国や県と連携して行っております。また、空き家の活用については、空き家バンク制度を推進する中、バンク利用者への住宅リフォーム補助などを行い、移住や定住の促進に取り組んでいるところであります。こうした施策により、三世代同居が増加することで、既存の住宅や空き家の活用に繋がるものと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

次に、医療、介護費の抑制による町の財政健全化について。三世代が同居することで、高齢者が家族とともに暮らすことにより孤立を防ぎ、精神的な安心感が得られるメリットや家族間の交流が増えることで家庭内でのケアが容易となり、医療介護費の抑制に繋がるメリットがあると思います。例えば、高齢者とともに生活することで、早期に疾病を見つけることができたり、家庭の中で役割を担うことで、認知症の予防にも繋がるのではないかと思います。町全体の医療、介護費の負担軽減が期待されますが、当局の考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

福祉保健課長 中込浩司君。

○福祉保健課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。三世代が同居することによる医療費や介護費については、家族内で疾病や怪我などの高齢者の健康状態を早期に把握できることができ、医療費の抑制に繋がるのが期待できるものと考えております。また、高齢者と同居することでコミュニケーションが深まり、家族間で助け合える関係が築けるため、認知症の予防などが期待できます。こうしたことが、将来的に医療費や介護費増加の抑制となり、町全体の財政健全化に繋がるものと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

次に（5）町の流出人口減少、流入人口増加について。三世代が同居することで人口流出を抑制することができます。また、同居支援をすることで、Uターンによる流入人口の増加を促進するメリットがあると思います。例えば、地元出身者が戻ってくるきっかけとする施策に繋がるとは思います。当局の考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまの質問にお答えいたします。転出した若い世代が町内に戻ってくることで、親世代の見守りや児童生徒数の増加などの効果が期待されます。こうした中、第三次富士川町総合計画、富士川町デジタル田園都市構想総合戦略において、移住や定住人口の増加に向けて、安心して子育てができる環境的経済的支援や、増穂インターチェンジ周辺の賑わい空間の創出など、若い世代が町に魅力を感じる施策を推進しております。こうした施策により、三世帯世帯が増加することで、人口流出人口の減少と流入人口の増加に繋がることから、引き続き推進してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

それでは次に（6）防災防犯効果の向上について。三世帯が同居することで、家族間の連携が災害時の迅速な対応や、防犯意識の向上に寄与するメリットがあると思います。例えば、災害時に家族が協力して避難や支援を行う体制が整うことで、自助、近助の防災力が向上する可能性があると思いますが、当局のお考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 西川修司君。

○防災交通課長（西川修司君）

ただいまの質問にお答えします。三世帯同居は家族間の絆を深め、世代間の支え合いを促進する効果があり、防災と防犯の観点から多くのメリットがあると考えております。災害時においては、高齢者や子どもの安全確保が迅速に行えるほか、家族全体での防災意識の向上にも繋がります。各世代の経験や知識を活かし、より効果的な避難行動や備蓄品の準備が可能となり、家族全体の防災力が高まると期待できます。防犯面においても、三世帯同居は家族間での見守りが自然と行われるため、不審者の侵入や犯罪被害のリスクが低減されます。また、世代間で防犯意識を共有することで、地域全体の防犯力向上にも繋がります。さらに、日中も家族が在宅している可能性が高くなるため、空き巣などの犯罪抑止効果も期待できます。こうしたことから、三世帯同居が災害時の対応力強化や防犯意識の向上に効果があるものと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

次に（7）エネルギー消費の効率化と環境負荷の軽減について。同居世帯が増えることでエネルギー消費の効率化が図られ、環境負荷の軽減に繋がるメリットがあると思います。例えば、同居による共有スペースの利用や省エネ設備の導入が促進されることで、SDGsの目標13に寄与する可能性があると思いますが、当局のお考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

町民生活課長 芦澤晶子さん。

○町民生活課長（芦澤晶子さん）

ただいまの質問にお答えします。町では昨年度、地球温暖化対策実行計画を策定し、基本理念であります、次世代につなぐ環境にやさしいまちゼロカーボン富士川を目指し、様々な取り組みを実行しております。この計画においては、省エネ行動の推進として、家族が一部屋で過ごす団らんの時間を設けることにより、エネルギー消費を抑制することができ、また、太陽光発電等の省エネ設備を導入することで、環境負荷の軽減に繋がるとしております。こうしたことから、三世代の同居により、共有スペースの利用や省エネ設備が導入されることで、SDGsの目標13、気候変動に具体的な対策を、に寄与すると考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

三世代同居補助金の導入により、若い世代の定住促進、高齢者の孤立防止、地域コミュニティの活性化、空き家の有効活用、医療介護費の抑制、防災防犯力の強化、エネルギーの効率化など、その他にもたくさんのメリットが考えられますが、今回は絞って質問させていただきました。

次に、三世代同居世代の支援へのデメリットについての質問に移ります。（8）補助金の財源確保について。三世代同居補助金を導入する場合、財源の確保と持続可能性を担保することが重要です。既存予算の見直しや国県からの補助金の活用など、現時点で町としてどのような具体的な財源確保策を計画できるか、当局のお考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまのご質問にお答えいたします。現在、三世代同居交付条件とした国や県からの補助金はないものと認識しております。こうした中、三世代同居補助金の導入にあたっては、財源として現時点では、町外の皆さまが本町の取り組みを応援するふるさと納税制度や、企業版ふるさと納税制度が考えられるところであります。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

次に（9）補助金制度の公平性を確保するための基準の策定について。三世代同居補助金を導入する場合、公平性を確保することが重要です。家族構成や経済状況に配慮した条件設定が必要だと思っておりますが、公平に恩恵を受けられる制度設計をどのように実現するか、当局のお考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまのご質問にお答えいたします。三世代同居補助金を導入している自治体の補助金額については、家屋の取得費用や改修費用に着目し、定額としている例があります。また、

補助金額を他の移住支援補助メニューよりも、高い金額に設定して差別化を図っている例もあります。こうした中、三世同居補助金の導入にあたっては、制度設計について今後、導入自治体の事例を調査して参りたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

次に（10）個々のプライバシーを確保するための住環境整備について。三世同居を進める中で、親子孫など生活スタイルの違う者同士と一緒に暮らすことから、快適な生活環境を確保するためには、プライバシーの確保も重要です。町として住環境改善のためのリフォーム補助やプライバシー確保のための対策など、具体的な施策をどのように進められるか、当局の考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまのご質問にお答えします。プライバシーについては個人の考え方や同居世代間においても異なることから、家庭内で気兼ねなく過ごせる環境を実現することが重要であると認識しております。こうした中、三世同居補助金を導入している自治体では、三世同居のほか、近居に対しても補助対象とする例があり、個々のプライバシーを確保する有効な方法であると考えております。こうしたことから、三世同居補助金の導入にあたっては、公平性を保ちつつ、プライバシー面も含めて制度の研究をしてみたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

次に（11）三世間の価値観の違いによる生活スタイルの調和について。三世同居が進むことで、世代間の価値観や生活スタイルの違いが家族間の調和に影響する可能性があります。この課題を軽減するために、町としてコミュニケーション促進のためのプログラムや相談窓口の設置など、具体的な支援策をどのように考えられるのか、お伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまのご質問にお答えいたします。三世間の価値観の違いによる生活スタイルの調和については、年齢や世代の違いを理解した上で、家庭内での分かち合いや互いを尊重していくことが重要であると考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

三世同居補助金の導入に際しては、財源の確保、世代間の価値観の違いへの対応、プラ

イバシーの確保、制度の公平性を確保する具体策が重要です。これらの課題への適切な対応が政策成功への鍵となります。その他にもたくさんのデメリットが考えられますが、今回は絞って質問させていただきました。

次に町が導入する場合の課題についての質問に移ります。(12) 三世代同居補助金を導入する場合、その実現に向けて、直面するであろう課題について、特に財源確保、住民の理解と協力の促進、制度の運用における公平性確保など複数の側面が考えられますが、町として最も大きな課題は何であり、その重要性についてどのように認識されているのか、当局の考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまのご質問にお答えいたします。三世代同居補助金を導入する場合の課題の一つに、補助対象者の要件があります。具体的には、転入者の場合は子、孫世代のほか、親世代が転入する場合も考えられます。また、町内で転居して三世代同居となる場合も考えられるところでもあります。さらに、既に三世代同居している世帯との公平性の確保も課題と考えられます。また、補助金交付後の居住実態についても、予期せぬ転勤や施設への入所などにより、三世代同居でない状態になってしまう場合も考えられることから、三世代同居補助金を導入している自治体の事例を参考にしながら、最善の方法を研究していく必要があると考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

次に(13) その課題を克服し、政策を実現するためにはどのような具体的な対応策が有効なのかについて。例えば、財源確保のための新たな収入源の提案や住民への情報提供による理解促進、透明性を確保するための制度設計など、町としての取り組みの方向性について、当局のお考えを伺います。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまのご質問にお答えいたします。現時点におきまして、課題を克服する具体的な対応策はございません。今後、既存の補助制度との整合性を図りつつ、先進事例の研究を重ね、町の皆さまの暮らしをより豊かにできるよう、制度の研究を進めてまいりたいと考えており、以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

次に(14) 最後にその課題を解決することで、三世代同居補助金が町民の生活や地域全体にどのようなポジティブな影響をもたらすと予想されるかについて。この政策を導入する

ことで得られる可能性のある効果や持続可能なまちづくりへの貢献について、当局の考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまのご質問にお答えいたします。三世代同居補助金を導入することで得られる可能性のある効果といたしましては、三世代の支え合いや児童生徒数の増加、就業者数の増加、税収の増加などが期待できると考えております。こうしたことから、地域全体の絆が深まり、お互いに助け合える関係性が構築されるものと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

それでは最後に、三世代同居補助金の導入の可能性についての質問に移ります。（15）三世代同居補助金制度の導入の可能性について。これまで三世代同居補助金のメリットやデメリット、導入に向けた課題について質問させていただきましたが、最後に改めてお尋ねします。町の発展において町外からの移住者を迎え入れることも重要ですが、何よりも今この町に暮らし続けている住民が安心して生活できる環境を整えることが、持続可能なまちづくりの基盤となると考えます。三世代同居補助金の導入にあたり、現在、富士川町に住み続ける住民が、家族の繋がりを大切にしながら暮らせる環境を維持、向上させるために、減税措置や新築補助、改築、リフォーム補助などの具体的な支援策を検討することは可能でしょうか。これらの政策を組み合わせることで、地域への愛着を深め、町民の生活の安定を確保し、世代を超えたコミュニティの活性化に繋がると考えます。町として今ここに住んでいる人々の暮らしを支え、将来も住み続けられる環境を整えるために、三世代同居補助金の導入の可能性についてどのようにお考えか、当局の考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 渡辺成昭君。

○政策秘書課長（渡辺成昭君）

ただいまのご質問にお答えいたします。三世代同居補助金の導入の可能性につきましては、住宅改修などに関する既存の補助制度を踏まえ、組み合わせや調整を図りながら、制度設計の可能性を研究していく必要があります。こうしたことから今後、町の皆さまがより豊かに安心して暮らせるよう、様々な支援策の検討を重ねる中で、導入の可能性を検討してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

一つだけ再質問をお願いいたします。ただいま前向きに検討するというお答えでしたが、これまでのやり取りで、三世代同居補助金制度を町長はどのような印象を持ち、どう捉えられたのかお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

今、鮫田議員の方からですね、投げかけられた議論を聞きながらですね、私は温故知新という言葉が頭に浮かんできました。三世代同居というのはですね、これまで我々の地域当たり前にあったようなものがですねだんだん減っている。しかしながらその古きもの、これをですね、しっかりと尋ねながら良い部分をですね、しっかり見据えながら今の制度に合わせて実現していくということ、これが非常に大事なかなというふうに感じたところです。

実は町がですね、国勢調査の中で調査したところですね、平成27年5673世帯だった中ですね、全体がですね、三世代同居が568世帯、また令和2年にまた国勢調査をしたときにですね、町の全世帯が5638世帯中443世帯、わずか5年で100世帯以上減っているという。趨勢としては、三世代同居が減っている核家族化、そしてそれぞれの世帯が独立している、世帯数はあんまり減ってないという趨勢の中で、どうやってこの今議論の中で、メリットこれがですね、あぶり出されたわけじゃないですか。これをどうやってですね、うちの町の施策として、また町民に還元できる施策として少子高齢化人口流出の抑制のための施策としてですね、展開できるかというのをですね、しっかりと研究していきたいというふうに思っております。

まずこの町に住む方々がですね、より幸せを感じるようなそういうまちづくりの施策、これを実現していきたいという思いは私も一緒でございます。様々なデメリットの部分ですね、またハードルの部分をしっかりと研究してクリアしてですね、実現に向けて研究していきたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

三世代同居補助金の導入は、町が抱える人口減少問題、少子高齢化や人口流出といった課題に対し、具体的な解決策を提示し、持続可能な地域社会の形成に寄与する重要な施策であると確信しています。この取り組みは、住み続けられるまちづくりや地域コミュニティの活性化、高齢者の安心と若い世代の定住促進など、多くのメリットをもたらすと期待されます。一方で、課題も含まれることを十分に認識し、それらに対する建設的な対応策を講じることが不可欠です。町民の多様なニーズや意見を踏まえ、ともに持続可能な未来を築いていくため、メリットとデメリットの双方を十分に検討し、町民の暮らしをより豊かにするため、よりよい政策実現への一歩を進めていただきますようお願い申し上げます。

それでは次に質問事項2、町長の今後の町政運営についての質問に移ります。6月6日の新聞報道において、今定例会の一般質問の答弁で自分の考えを明らかにしたいと記載されておりましたので、質問を通じて表明していただきたいと思っております。町長はこれまでの4年間において、町政の発展と地域活性化に向けた様々な施策に取り組み、多くの成果を上げてこられました。特に協働のまちづくりやゼロプロジェクトの推進により、町民の生活向上に大きく寄与されたことは高く評価されるべきものです。これまでの努力と実績に敬意を表す

るとともに、今後の町政運営に向けたお考えをお伺いしたいと思います。

最初に（１）任期満了に伴う町長の進退について。町長の任期は来年１月に満了となりますが、次期町長選に出馬される意思をお持ちでしょうか。既に決断されている場合、その決断に至った理由や背景についてお聞かせください。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。令和４年１月１６日に富士川町長に就任させていただきました。それからおよそ３年半、町民の皆さまのご支援とご協力を賜り、町政運営を行えたことに心より感謝申し上げます。またこれまで対話と現場主義による協働のまちづくりを柱に、次の政策の実現を目指し実施してまいりました。

まずは、町の財政の健全化を大幅に図ろうということで実施してきました。就任してまもなく町の財政状況を確認し、併せて将来を予測する財政シミュレーションを作成し、町民に公表しました。基金は枯渇、将来負担比率は県内ワースト１位となる衝撃的な予測を覆していくために、歳入増と歳出削減をこれまでの手法にない、斬新な手法でやってきたというふうに考えております。歳入増についてはふじかわまちづくり公社の設立、ふるさと納税を中心とした新しい財源の確保に努めてまいりました。歳出減については、予算編成にあたり徹底した歳出削減を行い、また各事業についても一般財源を使わない富士川ゼロプロジェクトを推奨し、町の財政の健全化を図ってまいりました。また中山間地域を中心に、活力ある農村を振興するための農村ＲＭＯの仕組みを首都圏で初めて導入し、中山間地域が連携し自走できるための仕組み作りを始めたところでございます。併せて人口減少対策として、消滅可能性自治体から脱却するためには、町に住む方々への支援強化が大切だと判断しその第１弾として、子育て支援策の強化を行いました。保育料無償化、給食費無償化、産後ママ支援、オムツ代助成などの県内トップクラスの子育て支援策を行ってまいりました。交流人口の増加と町の経済の活性化に向けて、富士川リバーサイドパーク構想を展開し、賑わいの創出も併せて図ってまいったつもりであります。引き続きこれらの政策を進展させるために、また将来に渡って堅実かつ持続可能な財政運営を行い、町民生活を豊かにするためには、まだ道半ばであり、引き続きの弛まぬ努力が必要であると考えております。私達の愛するこの富士川町をさらに素晴らしい町にするために、引き続き全身全霊をかけて取り組んでまいりたいと考え、次の富士川町長選挙に立候補する決意を固めたところでございます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○１１番議員（鮫田洋平君）

力強く出馬の表明をしていただきありがとうございます。次に今後の町政運営について。次の４年間の町政運営において、最も力を入れたい施策は何でしょうか。その施策の推進にあたり、現状の課題や改善すべき点があれば具体的に教えてください。また、町民との協力や行政の取り組みの進め方についても考えをお聞かせください。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えします。今後の町政運営につきましては、孔子の論語にある、近き者喜び遠き者も来るという考え方、これに基づいて町の町政を運営していきたいというふうに思っております。簡単に言うと、先ほど鮫田議員から話があったように、町民主体の、町の人たちがここの町に住んでいて素晴らしい地域だと、こういう地域をつくることによって、近隣の人たちが素晴らしい町だねということでやってくると、こういう施策を中心に、人に投資をするというところを主眼に進めていきたいと思っております。併せて町が令和7年3月に改定しました、第三次富士川町総合計画、町の方針に基づきながら引き続き町政運営を担っていきたいというふうに考えております。また、ときとして町の方向性を左右する重要な意思決定に直面したときは、対話と現場主義による協働のまちづくりに基づきながら、町民との対話や透明性を持った情報発信を行い、意思の決定、決断を行ってまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

これまでの4年間、町政の発展と地域の活性化に向けて、様々な施策を推進されてきました。その取り組みの中で築かれた成果や町民との信頼関係は、今後の町政運営にも生かされるべき貴重なものだと思います。次期町長選への決断や、今後4年間の重点施策についてお聞きしましたが、町民にとって今後の町政の方向性が明確に示されることを期待しています。これからの町政がより発展し、町民が安心して暮らせる環境を築いていけるよう、行政と町民がともに歩んでいくことが重要だと考えます。私自身もこの議場におられます皆さま、また町民の皆さまとともにアイデアを出し合いながら、これからの富士川町を作っていくと思います。以上で私の一般質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

以上で、通告1番 11番 鮫田洋平君の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩といたします。